

日本語 TADOKU なごもり 教室立ち上げフォローアップ @守山図書館

地域日本語教育コーディネーター研修 実践報告書
公益財団法人名古屋国際センター 太田梨理香

教室概要

名古屋市守山区にある守山図書館主催のボランティア日本語教室

- ・図書館という特色を生かし多読を行う教室を目指している
- ・大人、子ども幅広い層を対象予定
- ・開催日：毎月第1・3日曜日 14:00-15:30 (初回：11月3日(日))
- ・ボランティアは、守山図書館、名古屋市が主催のボランティア養成講座参加者

目標：コーディネーターとしても、名古屋市内でも多読の教室立ち上げ運営は初めての試み。
図書館、ボランティアと一緒に作り上げていきたい。

<立ち上げの経緯>

→ 図書館側の「図書館で日本語教室を立ち上げたい」、名古屋市守山区が空白地区解消のため「教室を立ち上げたらどうか」とう要望のもと立ち上げを見据えて守山図書館で養成講座を実施。養成講座終了後のボランティアからの「教室を立ち上げよう！」という気持ちもあり、立ち上げに向けて取り組んでいる。

<養成講座の内容>

名古屋市守山区の外国人状況や「やさしい日本語」など、教える内容ではなく、外国人と交流する地域交流の講座を実施。※日本語多読についても講座で説明&紹介。

課題① ボランティアの主体性が低い

- ・ボランティアの代表が決まらない
- ・図書館のボランティア養成講座修了生のボランティアが多く、教室運営経験者が少ない
- ・経験者も遠方からの参加になり、身軽に活動ができない。

<課題①への取り組み>

図書館主催のボランティア日本語教室のため、ボランティアにも遠慮している姿勢が見られた。いつまでも図書館が中心となって進めていくのは難しいとなり、コーディネーターが進行をしながら、徐々にボランティアが自主的に参加できるようシフトしていつている。

→今後の話し合いでは、図書館も含めてどんな教室にしていきたいか共通認識を持ちたい。(ボランティア個々は思いを持って活動をしている。一度、図書館も含めて話し合いをすると良い?)

ボランティアへワークショップやアンケートの実施する?

※近頃とてもいい雰囲気ですクラスが進められている。来年度に向けて話し合いを3月にするとよい?

→来年度からの活動のやり方も考えていく必要がある。(積極的に進めてくれていた守山図書館の館長が代わることになった。)

課題②

多読のノウハウ不足について

ボランティア、図書館スタッフ、コーディネーター含め多読に関して初心者であるため手探りで進めて

いる。

<課題②への取り組み>

守山図書館の講座内にて NPO 多言語多読の活動風景や教室代表者のインタビューを見てもらっている。
→今一度、紹介されていたルールについて確認を促し、ボランティアと共にクラス活動の流れを確認する。(ボランティアは何を知っている必要があるのか、どのような流れでクラスを進めていくのか)
既存のやり方にとらわれず「なごもり」のやり方を作っていく必要があり、ボランティア全員と一緒に取り組みたい。

◎コーディネーターとして果たした役割

現段階では、コーディネーターとして果たせた役割が非常に少ないと感じる。(この研修を通じてコーディネーターについて学ぶことが出来た。)無論、教室運営で必要なチラシや記録用紙の作成の際には、自身の経験や守山区の地域の性質を鑑みてアドバイスをすることが出来たし、守山図書館側に日本語教室を主宰する心得の様なお話はできた。ただ、多読という面での教室活動の組み立てやボランティアとの人間関係の構築は、まだ不十分であると感じている。今後も取り組みたい。

◎コーディネーターとして大切にしたい視点

前回の研修の際に「地域日本語コーディネーターは課長の様な存在だ」と講師の方から教えていただいたことがとても印象に残っている。人と人を繋ぐコーディネーターとして、関係者と人間関係を作り、困ったことがあったときに頼れる存在になるという視点を大切にしたい。

◎今後の展望

守山図書館の立ち上げフォローアップについて今後も継続して携わっていきたい。ボランティアが自信を持って楽しんで活動できるような体制にしていきたい。(日本語多読に関して自身もボランティアと一緒に学び、その都度の課題について一緒に考えていける存在になりたい。)現在は財団職員として、地域日本語教育体制整備事業担当者として事務的なことを行っている立場である。今回の学びを活かしてコーディネーターとして、教室からの相談対応や立ち上げ支援、プログラムの策定等関われるようにしたい。